

オリーブ果実収穫の省力機械化に関する研究(第2報)

採果剤エスレルとホルモン剤との混用散布について

三木隼人・福西安直

エスレルを採果剤として利用する場合、落葉を多発させる薬害を生ずるので、各種ホルモン剤を混用することによって、この薬害を防止できるかどうか、また、果実引きもぎ抵抗値にどのように影響するか調べた結果は、つぎのとおりであった。

1. 薬害防止効果

エスレル 500PPm 溶液に、NAA30PPm, IAA, 24D, 245TP, VB₁(塩酸チアミン)それぞれ 20PPm を混用して、Mission, Nevadillo Blanco 種に散布した。Mission 種では、各混用区の落葉はエスレル単用区に比して少なかったが、無処理に比較すれば多く、防止効果は明らかでない。Nevadillo Blanco 種では、無処理と変らぬ落葉を示し、エスレル単用区に比して明らかに落葉は少なかった。ホルモン剤の種類別では 24D が最良で、VB₁, IAA, NAA も良好で、245TP は劣った。

2. 果実引きもぎ抵抗値への影響

Mission 種では各混用区の抵抗値は、無処理区とエスレル単用区の間を示し、エスレルの採果剤としての効果を抑制した。Nevadillo Blanco 種では、245TP を除いて、各混用区ともエスレル単用区と同じ抵抗値まで低下したが、その後の回復は、単用区が小さなものに比して、無処理に等しい値まで上昇するものがあった。ホルモン剤の種類別では、IAA がエスレルの採果剤としての効果を抑制する作用は最も小さく、NAA, VB₁, 24D は大きかった。